

第2回 国際シンポジウム

アジアにおける歴史教育とフランス革命

第2回国際シンポジウムには、インド、ヴェトナム、中国、韓国、日本などのアジア各地の研究者が集い、それぞれの国や地域でフランス革命がどのように教えられているのかを比較・検討した。各報告はアジア各地の歴史教育や歴史教科書、さらには教育制度にまで視野を広げたものとなった。

シンポジウム開催の記録

日時： 2005年3月5日・6日

会場： 専修大学神田校舎 6号館（専修大学会館）2階 国際会議室

主催： 専修大学大学院社会知性開発研究センター／歴史学研究センター

日程

1日目 2005年3月5日（土）

13：45 開会の辞

14：00～14：30 「ヨーロッパとアジアにおけるフランス革命教育」
リラ・ムカージー（ジョドプル大学）

14：30～14：40 質疑

14：40～15：10 「1945年以前と以後のヴェトナムにおけるフランス革命史(1789-1794)教育」
ディン・スアン・ラム（ヴェトナム国立大学ハノイ校）

15：10～15：20 質疑

15：20～15：40 休憩

15：40～16：10 「中国におけるフランス革命教育」
楊 彪（華東師範大学）

16：10～16：20 質疑

16：20～16：50 「日本の歴史教科書におけるフランス革命・ナポレオンの位置づけ」
松本 通孝（青山学院高等部）

16：50～17：00 質疑

17：00 閉会

2日目 2005年3月6日（日）

10：00～10：30 「現代韓国の世界史教育におけるフランス革命史教育」

車 周昊（石串高等学校）

10：30～10：40 質疑

10：40～11：00 コメント 田中 正敬（センター兼担教員・専修大学文学部）

11：00～11：20 休憩

11：20～12：30 全体討論 司会 内藤 雅雄（センター兼担教員・専修大学文学部）

飯尾 秀幸（センター兼担教員・専修大学文学部）

12：30 閉会